

道・川・まちをきっかけにした 元気な地域づくりフォーラム

昨年12月に開催したフォーラムの内容を2回にわけてご紹介。今回は、座談会とパネルディスカッションです。今回も地域づくりのアイディア満載でお届けします。

※基調スピーチは、2月号に掲載しています。

【座談会(事例発表)】

- ◎コーディネーター NPO法人アイディング
常務理事兼事務局長 甲山知苗 さん
- ◎アドバイザー NPO法人地域交流センター
理事 今泉重敏 さん
- ◎二戸市堀野町内会会長 清水秀夫さん
- ◎二戸地方振興局 石川英俊
- ◎後川に清流をとりもどす会代表 大原健さん
- ◎県南広域振興局花巻総合支局 楢山護

事例:みんなにやさしい堀野みち

(住民協働による歩道の整備) - 二戸

二戸市堀野町内会は、人口は約3,000人、1,100世帯。その中で会員数は約800世帯です。県道を挟む形で堀野地区の商店街があり、近くには公園やショッピングモールもでき、ますます人が集まる地域になりました。すると交通渋滞や交通事故等の課題が出てきたため、安全で快適な道づくりを検討しようと2つの組織を立ち上げてスタートしました。一つが堀野地区道づくり懇談会で、地域の代表者の方をメンバーにして、道づくりに関する計画とか利用ルールを決定しました。もう一つが堀野地区の道づくりのワークショップで、地域住民の方が参加して、自由な意見とか提案を行っています。平成14年は、懇談会とワークショップを2回開き、道づくりの基本方針作りまで進めました。15年は、懇談会とワークショップを開催し、最終的な道づくりの基本計画案を策定しました。ワークショップ参加者30人程度を一班5名~7名程度の少人数に分け、地図を広げてポストイットなどに書きながら意見交換をしました。右折レーンを設置するとか、歩道・車道の幅を広げてほしいとか、信号をつけてほしいとか、花壇があつていいとか、街灯がほしい、道路が冬場

凍結して危険であるとか様々な意見が出されました。

街灯は、行政で設置した道路照明の他に、商店街の振興会が歩道内に30本程度街路灯を設置しました。総額3千万円のその半分を商店街の方々が自己負担しました。

ワークショップでの意見をまとめて、安全・安心・快適のキーワードを基に3つの目標を立てました。誰もが安心して楽しく歩ける道づくりという目標、安全で走りやすい道づくりという目標、3つ目が快適な道路環境のためのルールづくりです。全体をまとめて「みんなにやさしい堀野みち」というキャッチフレーズを立てて、車にも歩行者にも皆さんが満足していただける道づくりを目指していこうと決めました。行政は、幅員の見直し、道路照明灯の設置、歩道の段差解消、歩道舗装のカラー化、雨水の排水性の向上を担いました。植樹マスは、少し小さいものに変えて歩きやすい歩道にしました。

町内会の役割は花壇の適切な管理です。県道、市道、児童公園などの花壇の花植え、除草、側溝整備等を担当しています。除雪は、県・二戸市・堀野町内会の三者協定で県道や市道を除雪しています。これは無料ボランティアです。60歳以上の方々を中心に16名のメンバーが3班編成で早朝から通学・通勤路の確保のため除雪しています。

整備後に住民アンケートを行い、約560通の回答いただきました。「着工前に歩道整備計画について知っていましたか」という問いには、およそ7割の方から「知っていた」という回答をいただきました。「歩行者の安全性についてどうでしたか」という質問には、「高まった・どちらかというが高まった」という評価を約9割いただきました。ワークショップを通して道づくりの計画段階から地域と一緒に進めてきたことによって、お互いに理解しながら事業を進められ、整備後の満足度が高かったかなと感じております。

通常道づくりの計画段階に行政側から計画が示されますが、今回は最初の計画段階からワークショップで住民と行政と一緒にやったことで、理解も深まりましたし、事業に参画したという意味から道に対する愛着が今までと違った部分で感じる事ができました。こういうことは続

けられればいいなと思います。

手探りで進めたワークショップ

(コーディネーター 甲山さん)

ワークショップや協働で行うことに地域住民側のとまどいもあったと思うんですが、一番ご苦勞なされたのはどういったことですか。地域の中で何か変わったことがありますか？

(清水さん)

何しろ初体験ですから、最初は出席した方が2回目は出てこなかったりしましたが、結果的には100名近く参加し、良かったんじゃないかと感じています。これからは、道を造ったことで終わるのではなく、地域を活性化するために何か恒常的なものをしかけていかなければと思っています。

(甲山さん)

次のステップが来そうな予感を感じますね。行政側としてこうすればもっとやりやすくなるというような感想はありますか？

(石川さん)

二戸市さんを一緒に抱き込んで地域に呼び掛けながら進めていければもっといいものができるんじゃないかと思っています。ワークショップは初めてで、進め方も手探り状態で時間もかけながらゆっくりやりましたが、その辺を改善できればと思います。

(甲山さん)

市との連携と事例を積み重ねながら経験を積み重ねていくことでというお話をいただきましたが、今泉さんから感想や歩道を使ったアイデア等ございましたら教えてください。

これからもみち(道・未知)への挑戦

(今泉さん)

私は、まちづくり校区ということで、まち全体・校区全体をどうするかで進めています。九州でも道をどうするかという議論が出まして、その時皆さん勝手にここは狭いから広くしようと線を引かれたんです。そうしたら地権者の方が「あなた達勝手に私の家のところに線を引いているけどあなたが私の気持ちになったらどう思います。」って言われたんです。そしたらシーンとなりまして、やっぱり自分がその地権者になったつもりで道路は考えないといけないとなり、最終的には本当に困ってるところだけを

広くするということになりました。土地利用計画をつくった後に最後に出てきた言葉が、一人一人が自分の地権者になって、どうしてもお願いしたいという時には地域の人が用地交渉にあたるというところまでできました。すると地権者の方も、やっぱり次世代の子どもたち、10年、20年後を考えてやろうとなりました。道づくりから、まちに広がって全体にいけないのかなと思いました。街灯にしても、子どもがクラブ活動して帰るのがちょっと遅くて暗いと言われますが、じゃあその暗い時間に住民の方が歩いたかどうかということ、そういう体験を実際しないといけないし、その時に街灯がなくても通りの家の玄関の電気を9時までつけましようとかそういう運動をまずは展開して、どうしても足りない所に街灯つけようとか、実際に移動式の街灯を持ってきて点けてみるとか、そういうことで協働の道づくりができるができるのかなと思います。まちづくりこれから大変だと思いますが、みち(道・未知)への挑戦ということでがんばってください。



パネラーの皆さん

事例：後川における住民協働の取り組み (住民協働による川の再生)－花巻

活動地域は、一級河川後川の下流域、花巻という旧花巻町、古い街並みで約3,000世帯あり、花巻市の中心街、主な建物でいうとイトーヨーカドー花巻店があるところを流れる河川です。

取り組みの背景ですが、後川は水質が悪く、花巻市や県でも水質浄化施設等を設置するなど、行政側でハード対策を中心に進めてきましたが、やはり限界がありました。このような中、県でも親しみやすい河川にしたいということで、後

川水辺環境再生事業という工事を実施するため、平成 15 年度に 3 回懇談会を開きました。懇談会で工事の説明をした際、地域の方から、「工事だけやって現場がきれいになっただけじゃ意味がない。水がきれいにならないとみんな近寄らない。それには、住民も一緒になってやらなければならない」という意見が出されました。

次に、具体的な取り組みとしては、平成 16 年度に、後川再生支援プロジェクトチームを発足し、市民の方々が参画いたしましたワークショップを 4 回ほど実施しました。プロジェクトチームでは、花巻市、県、水土里ネットワーク、岩手大学、NPO グランドワークいわての協働により、水平パートナーシップという対等の立場で上下の関係なく連携を図っています。16 年から 18 年の 3 ヶ年は、県で予算を確保し資金支援をしています。ワークショップの成果として、4 つの活動提案をしています。1 点目は後川を清掃や草刈りなどできれいにする活動、2 点目は後川の歴史を調べたり、それらを広く市民に知ってもらおう活動、3 点目は下水道の普及やそれらを踏まえた水質改善や自主防災を考える活動、最後は後川の沿道に沿って快適で美しい魅力ある場所にする活動です。

17 年度は、会の設立には地元の自治会の協力が必要ということで各自治会からの推薦者を含めた計 25 名からなる世話人会と設立総会を開催しました。取り組みとしては、清掃活動、イベント検討部会や後川の歴史や地域を調べる活動、環境美化や水質改善や、低い土地での大雨水害の経験があったので、自主防災を考える活動もしました。地元小学校の総合学習支援として、北上川の変遷を石に刻み込んで北上川の堤防の上に残したり、ゴミの研究として拾ったゴミにどの様なものがあるか一緒に勉強しました。活動のまとめとして、岩手の都市河川清流化フォーラムを開き、自分たちの活動の他に宮古の山口川での取り組みのご講演をいただいて、学び合いました。

18 年度には、川の上流探検、行政との対等なパートナーシップによる合同会議の開催、後川アダプト活動の検討が加わり、会の帽子とジャンパーを身につけて活動しています。

また、会の自立に向け、後川再生支援プロジェクトチームの方々とお話をし今後すべき内

容の検討をしました。また別の視点ですが、岩手大学との協働として農学部の研究室の先生や学生さんと一緒に、流域を対象とした下水道の水洗化の促進の勉強もしています。

19 年度は、5 月に水土里ネット、花巻市、当会の三者で後川のアダプト協定を結びました。また、近くの道路工事の現場では、昔ここを北上川がどのように流れていたかという歴史学習も含めた見学会を行い、約 80 名の住民の方々が参加してくださいました。

地元住民が集まってこの会を設立しましたが、今では会員が活動を自分たちのライフワークとして散歩がてらにごみ拾い等も行っています。また会員の数名がエコリーダーや防災リーダーの育成に参加して自分たちのスキルアップを行っています。いろいろな職業や個性・才能をもった方がいっぱいいるので、課題解決に取り組む地域の自立的なシンクタンクになることを目指しています。最後になりますが、1～2 家族だった鴨の家族が今年は 7～8 家族くらいになって水もきれいになったと実感しています。私は川の横に住まいがありますが、小さな魚も上ってきて群れをなしていますし、橋では魚釣りをしている老人なども見受けられるなど日々成果が出ており、ますます活動を維持していかなければならないという気概も感じています。

活動が楽しければが大原則

(石川さん)

活動をする上での苦勞とか、うまくやっていける秘訣を教えてください。

(大原さん)

会の趣旨を分かり、活動が楽しければ人は参加します。私も農業用水や土地改良区のことにはわかりませんが、会に参加して活動を通して、水が私の隣の川を流れているということにすごく感動しましたし、勉強させられました。ですから楽しいということを起点に広めていけばもっと人が集まるんじゃないかと思います。

(甲山さん)

やはり活動が楽しければというのが大原則で、自立的な活動を目指す地域の団体とサポートする行政との距離感ややり方は、どこの地域にとっても共通の課題です。活動が広域になると、どうしても新しい団体が必要になります。その時に団体をどう自立的に運営し、活動を続

けていく基盤を作っていくのかお伺いしたいのですが？

(大原さん)

事務局をどこに置くかという非常に難しい問題がありましたし、また、会員が集まる場所が欲しいという要望もありました。広くなくていいので間借りして事務局があればお茶飲みを集まったり、門戸を開いておけば集まりやすいということです。あと、清掃活動ですと20~25名位はずっと集まりますが、他の行事をやるうとするとなかなか人が集まらないことが、うまくいってない部分ではございます。

行政職員も市民の一人として応援を！

(甲山さん)

今後の総合支局のサポートや花巻市との連携はどういった形でされていきますか？

(大原さん)

住民協働の活動に対する助成事業に応募し、5ヶ年助成が受けられるということが決まり、今年度以降、資金面での自立ができたというのが大きなポイントです。また、取り組みには、花巻市にも当然入っていただき、環境担当の方に総合学習支援の中の指導者という役割で入っていただきました。防災面でも、担当の方がこの地区の洪水対策の説明をこの会の中で行い、会の意見も踏まえた工事になりました。身近な生活レベルで市とも協働ができてお互いに良かったと思っています。

(甲山さん)

後川の事例は、県内では珍しいNPOと行政と地域の3つが一緒になって水平のパートナーシップでやられたということですが、中立的なNPOが第三者として入ったことで進めやすかったという意見もあり、今後の一つの進め方の参考になるかなと思いますながら聞いていました。

(今泉さん)

私は、全国川づくりワークショップの仕掛け人です。全国の川づくりの方々が集まって発表しあいみんなで誉め合います。ぜひ参加して全国と交流して、後川があれば前川や中川もあると思うのでそこで姉妹河川なんかを結んで一本で頑張られたらどうかなと思います。また重要なのは、行政は年度予算でやられますが、住民の熟度に合わせて住民はやらないといけない、そのすり合わせが非常に重要になってくるので、

それを柔軟に土木の方でも考えていかなければならないのかなと思います。それと最も重要なのは担当が変わっても応援するという仕組みです。市民の、県民の一人として応援するという仕組み。僕は榎山さんの5年後が楽しみで、この後川に来てるのかというそこが大切だと思うし、部長も10年先に来ていただければいいかなと思います。NPOが入って水平役割分担でやっていっていることがいいと思います。5時以降もぜひ県職員・市職員の方もこういうクラブに入って活動していただければいいのかなと思います。

【全体ディスカッション】

「さあ今からできること」

◎コーディネーター 甲山知苗 さん

◎アドバイザー 今泉重敏 さん

◎県土整備部長 西畑雅司

まちづくりとは？

(甲山さん)

一番最初に非常に大事な質問です。「まちづくりの定義とは何ですか？」という質問です。

(今泉さん)

まちや地域が将来こうなったらいいなという思いをみんなで出し合って、ただそれがばらばらであってはいけないというその方向性をみんなで確認しながら、それに向かって一人一人が参加して汗を流すことだと思います。勉強だけじゃまちづくりとは言わない、行動に移すということ。まちの将来をみんなで考えて実現に向けて行動することがまちづくりだと思います。

(西畑さん)

わたしは、地域づくりみたいな観点かなと思っておりまして、そこに住んでいる方々、住み続けるであろう人達が自分たちの住んでいるところが自分たちにとって心地よい場所になるように、それぞれの人達がそれぞれのできる範囲でいろいろなことをやっていくことかなと思っております。

(甲山さん)

私にとってのまちづくりというのはたぶん生きていくこと。私はひとりでは絶対生きていたくないし、もし地球人類最後のひとりで生き

残るかと言ったらひとりで生きるくらいならみんなと一緒に死んだ方がいいと思うので、たぶん暮らしていくこと自体、つながりをつくっていくことが私にとってのまちづくりかなと感じております。

さて、会場からの質問です。「いつも思うのですが、雪が積もると点字ブロックが見えなくなります、目の見えない人達はどのようにしているのでしょうか？ユニバーサルデザインの観点から見たまちづくりについての考えをお聞かせください。」という質問です。

(石川さん)

誘導ブロックが見えるくらい除雪するのが理想なんです、現状では全部ができてるといわれるとはっきり言えませんが、努力しながら進めています。

(会場から)

誘導ブロックは黄色が多いですが、一部で黄色を使わないところもあります。場所によって黄色が目立ち過ぎて景観に合わないと感じるところもありますがいかがでしょう？

(今泉さん)

私は、日本サインデザイン協会にも入っており、そういう問題は、結構出てきました。

当初、健常者の方が見て目立つという意味じゃなかったのかなと思いますが、本当に視覚弱者の方にとって見やすいかということでもないような感じがします。今見直しが行われてると思います。

一人一役で参加しやすい仕掛けづくり

(甲山さん)

次の質問です。「市民参加の手法としてワークショップを行っています、参加できなかった住民の方への情報の提供や共有はどのようにされましたか？工夫した点などもご教授ください。」

(今泉さん)

ワークショップはアメリカで生まれたものです。言葉が通じない人同士が、一緒にやろうと思えば、会議より現場でその空気をみんなで体験して理解してから、本当にそれが将来この地域のためになるか本音で意見を出し合っ、情報を共有してよいものを作り上げていこうという作業です。僕は「わくわくワークショップ」と言っています。

(甲山さん)

ワークショップは参加した方は現場も現状も知って、今度こうしたらいいねと感じられるすごくわくわくした場なんです、逆に来なかった方との情報量がものすごく違ってきますね。そのケアをどうしているかという質問でした。

うちのNPOでも町内会さんと自主防災のワークショップをした際には、やった様子を簡単にまとめたものを班長さんを通じて全戸配布しました。

(今泉さん)

できるだけ口頭で伝えようと、参加した人がPTAの会員さんであればPTAの会合がある時に最初に2分間時間をもらって説明したりしています。それと重要なのは、出席できなかった人に「あなただめ」と絶対言わない、働く時間帯も違うので来れなかった人を否定しないということ。逆にその方がインターネットが得意なら、その方にワークショップ用の資料集めをお願いし、ワークショップで活用する。その人は出席してなかったけど翌日、「ありがとうね、あれ役立ったよ」と一言言ってくればその方も直接参加してないけどすごく一緒に参加したような思いになります。

(甲山さん)

地域活動は幅広い年齢層で成り立つのが理想だと思うのですが、仕事をもつ若い人は平日参加できないのが現状です。若い人が参加しやすくなる仕掛けや仕組みとしてどの様にしたらよいでしょうか？

(今泉さん)

若い人は、趣味・特技が僕らみたいな中年とご高齢の方と違うものをたくさんもっています。例えば、若い人にホームページを作ってもらったり、絵が上手な人に絵を描いてもらったりすることで、その人の特技を引っ張り出して、「今日は参加してないけどもこういう資料をいただきました。彼に会ったらお礼を言うておくように」というようなことを地域の会のリーダー達が引っ張り上げて、みなさんにほめてもらうようなことを言う。そこが大切。時間に参加できない方もいるわけで、どうやって自分が一人一役で参加しているのか、その雰囲気をつくることだと思います。

(甲山さん)

感想を紹介します。「素晴らしいアイデアの数々ありがとうございました。いくつかいただきです。文化の違いも感じました。西日本で知らない大人＝不審者ですが、岩手とは違うなと感じました。防災対策のやり方は、地域によってやり方を変える必要があると思います。岩手で同じやり方をすると、大人に対する不信任感



会場の声を拾いながら

を子どもに教えるだけかもしれないですね。」信頼できる関係・コミュニティがまだまだ残っている地域ではこういう意見もありますね。

地域主導の防災活動は「避難」が大事

(甲山さん)

西畑さんに質問です。「治水対策と絡めた地域主導の自主防災組織の取り組みの事例があったら紹介してください。」という質問です。

(西畑さん)

治水対策というと国とか県の仕事です。ダムを造ったり、堤防を造ったり。ここに住民はなかなか参加できないし、すべきではないと思います。でもハード整備は、全ての地域である水準までいっているかというと実はそうでもありません。県でも重点的にはやっていますが、すぐには効果が出ません。そういう時に地域の防災組織に期待することは、避難です。市町村長の命令や勧告を行います、実際にはなかなか避難できていません。自主防災組織のようところで常日頃顔つき合わせていろいろ話をされている方で「あれ危ないよね」という形で避難するとか、そういった部分で自主防災組織の役割は大きいのではないのかなと思っておりません。

トイレ問題

(会場からNPO)

「どんと晴れ」の雫石から来ました。葛根田川の川の公園には、散歩の方が相当見えています。学校の子どもたちを案内し、先生に感想を聞きましたら、「トイレがなくてね」と言われました。町では、堤防外で簡易トイレを作っています。将来的にはトイレが欲しいのですが、簡易トイレにしても賃借料の関係で非常に困っています。

(今泉さん)

周辺や流域にはお店や民家が全然ない。何もないとむしろ本当に必要かどうかを利用者に聞いてみないといけないのかと思います。意外と設置したら使わないという所が出ています。本当に必要なかをきちんと聞いた上で、社会実験としてみたらどうかと。ワークショップなどで河川管理者と一緒に協議したらどうかと思います。今、川の駅構想が国の方でも議論になっています。水辺の学校の時には、必ずそういう施設を作ろうということで作られます。日本トイレ協会の方で応援いたします。悪かったら水に流しますので。

有償ボランティア・無償ボランティア

(会場からNPO)

住民に根強いまちづくりの参加を働きかけていくときに、国道であればボランティアサポートプログラムというのがありますが、地域に働きかけた時にまず興味がなく、無償だということではなかなか根付きません。もう少し有償ボランティアの考え方をもっていただければ、まちづくりとか市民活動の広がりが出ると日々思っております。

(甲山さん)

託児ボランティアなどは、コスト、時間、責任も大きく有償でやっているNPOがほとんどです。農地・水・川の委員会でも、人的な部分に対して補助が出る助成をしていますが、これまで無償ボランティアでやってきたことにお金が払われたり払われなかったりする。また、無償ボランティアになれば、生活や経済的に余裕がある人だけがボランティアをできることになってしまう。そういった議論もあり、無償ボランティアと有償ボランティアをどう使い分けていくのか大きな課題になっています。

(西畑さん)

道路の草刈りについては、振興局の土木部が町内会の方々といろいろお話して、どういうふうに管理していきましようという話の中で、「業者さんに頼むんじゃなくて自分たちでできる範囲でやるから」という動きが県内で100箇所以上出てきています。ここには、業者さんにお支払いする半分くらいの実費をお支払いしています。川でも草刈り機の刃や軍手やゴミ袋などを実費で、現物でお払いしている例もあります。

一方で、国道などで花を植えたりしている活動、こういうところは本当に無償ボランティアです。表彰状を贈呈するくらいです。また、まちづくりの知恵を出す部分、地域の景観を点検する活動には、非常に少額ではありますがけれど動きが若干出てきています。

(今泉さん)

無償のときは、もう一方で有償のような応援ができないかということです。できるだけ他から視察に連れてきて、その活動のリーダーの方がお菓子屋さんだったらそこに連れて行って説明を10分聞いて、帰る時にはお菓子を買っていただいて、そこで金が落ちるとかですね。間接的に応援することでその人のやる気を高めるようなことをしています。また視察が盛んになるよう出来るだけ人と人との交流に力を入れるようにしています。道路管理者では、ちょっとした歩道+α駐車場があると、そこでフリーマーケットがやれるとか、何か資金稼ぎができるような応援ができるようなしくみをみんなで考えたらどうかかなと思っています。サッカーのジュビロ磐田がある静岡の磐田市では、磐田ブランドということでブランド商品に登録を受けた商品を地域の人がインターネットで買うと、その3%、例えば一万円購入すると300円のポイントをもらえ、ポイントを好きな団体に寄付することができます。地域の商店街の活性化にもなるし、活動しているところに対しての資金援助にもなり、いい効果が出ると思います。

大学生の声

(会場から岩大生)

地域おこしの研究をしようかなと思っています。道路をただ歩くだけじゃなくて、いろんな形で利用するというのは新鮮なことだなと思いました。かかしを使って、農道を観光地のよ

うにして地域おこしをしていくというのは、これもまた面白いなと思いました。

(会場から岩大生)

林学の勉強してる学生です。ちょっとくすっと笑うようなアイデアとか、例えば漢字の看板だとか、人間が無意識のうちにやってしまうような行動に注目するようなアイデアがとても新鮮で、そういうことにどんどんみんなが気づいていけば街も面白くなっていくんじゃないかと思います。林学関係では、木を加工する製品とか木工細工とかあるのでそれを林道に立てて面白くすればいいと思いました。

若いパワーを取り込む秘訣

(会場から県職員)

今泉さんがいろんな取り組みで地域の方をうまく巻き込んでいると、すごく感心したんですが、人が固定化しているかなというところがあってそれをどういう風に打開すればいいのかなと思いました。

(西畑さん)

岩手の場合は、本当に固定していますね。国では所長が変わると、下も変わるんです。覚悟を決めてやるよと、君に任したからやっていいよという風にすれば、下の人達は自由に動いていけます。今どんどん公共事業のお金が減ってきています。人は急に減らないですから、一人の扱った仕事の量が少ないですね。前だったら住民協働なんて手間がかかってやってられないという感じだったんですが、一つの仕事に対して前に比べれば丁寧にできる。工事をやることでそこに住んでる人はどう思うんだろうかという疑問が出ると、じゃ聞いてみようという話になります。そういう丁寧な仕事をやっていけば徐々に広がっていくのかなと思っています。私が盛岡に来て思うのは非常に皆さんまじめです。今泉さんのスピーチでは遊び心があって、やれるところからやっていくという、そういうやり方のノウハウですとかこういった部分をもうちよっと勉強しなければいけないなと思いました。

(今泉さん)

地域性があります。私が地域に入る場合は、この人がキーマンだなとか人間関係図を作ります。そういう中から、例えば川づくり道づくりで何がやれるかということを導き出していきま

す。すばらしい考えをもった学生さんも中にいらっしゃると思いますが、自治会を通じるとそういう方は入ってこないの、学生さんを我々が逆にすくいます。先ほどのファン取り隊の隊長にして新聞に掲げると、彼はその新聞を実家の大阪に送って、お父さんお母さんから祝福を受けたという風に聞いています。本当は活躍できる人をうまく掘り起こしていかないと固定化されて、最後は固定化の中であそこしかだめだとか、ノウハウも限定されてしまいます。私は人材を探している時に小さな成功事例をつくります。ゴミの不法投棄のしめ縄とかですね。そうすると俺たちもやれるんじゃないかとなる、これが一番大切なこと。そして私と地元、地元の人同士が信頼関係をつくっていくことです。役所の方は役所を異動してもそれを応援する。そういう環境をぜひ西畑部長に組織で作っていただきたい。

わくわくしながら道を新たな視点で歩くようなことは林道でもできると思います。ムーミンの木に似てる、これはドラえもんとか、この木の長さは太さはどれくらいあるのかなとかわくわくするもの。農地だったらこれは10アールの田んぼ、とれる米は8俵、あなたが1年間に食べる米は1俵、5人家族だったらこれくらいの範囲ですよというのがわかるような仕組みにしておく、そこが通学路であれば、ここは10アール、「ああそうか」と子どもたちが見て面積を覚えていきます。隣は？答えは来週の月曜日、とか言っていると子どもは「70アールくらいかな」となると岩手の小学校を卒業する頃には小学生は全部面積がわかるという、スーパー小学生が生まれるのかなと思います。そこにあるのを活かしながら、わくわくやれるようなそういうみちづくりができればいいなと思います。

(会場から 行政職員)

自分なりにも子どもを軸にしかけていく施策を考えながらやっています。

ファン取り隊のリーダーに大学生の方がなれている絵を見せていただきました。ただ、高校、大学、就職してすぐの方から30半ばくらいまでに対する動機付けが難しいなと普段実感してきます。

(今泉さん)

就職されたばかりのところから30代は、引っ張り込むのが非常に難しいと考えています。逆に頭を柔らかくして、学生の時にこんな楽しいことをしていると、就職しても電話がかかってくるようになります。実際に九州で川づくりワークショップをやっています。去年まで学生さんで参加していた方が「今年も来ました」と言ってくるんです。「九州地方整備局に就職しました。」と言って。今度は担当者としてそれをやるようになり、彼女の活動をみんな見ているので「俺たちも応援するよ」と住民の方が言っているわけです。学生さんの時に会って、地域づくりをやりたいという熱い人の集まりを通じて学生を引き受けて巻き込んでやっていきます。前の段階が大切なのかなとですから小学生からそれやっておくとだんだん大人になってくると今のようなことがなくなっていくのかなと思っております。ぜひ道づくりでも学生さんも一緒にやるような仕組みを、そして彼らを表彰して、10年20年たってもう1回戻ってきて彼らがやってくれたおかげでこうなってるんだねと、里帰りシンポジウムとかやればいいのかと思います。

(会場からNPO)

学生のボランティア体験をけっこう受け入れています。今高校生、大学生が就職する時にボランティア体験があると、それが一つ評価される時代だということで、就職担当の先生とパイプをつくって清掃活動や伝統行事と一緒にやっています。1、2度来て、それが楽しいとわかれば来てくれます。何よりも私たち感動的なのは、「地域のおじいちゃん、おばあちゃんがこんなに頑張っているのに若い人たちが何もやってなかったのは恥ずかしくなりました。」とか。学校や部活など同世代の中の活動しかしていない彼らが、「上の世代の人から支えられて物事ができたのは初めてです。」とか感動的なコメントを残してくれます。そういう活動もまた一つの方向性かなと思っています。

明日の岩手を元気にするこれからの夢

(甲山さん)

最後にパネラーの皆さまからはこれからの夢を一言ずつ。

(清水さん)

パソコンを購入して、堀野の交流センターから情報発信したいと思っています。それが進んで地域が活発化されればいいなと思っています。

(石川さん)

夢というかこういう人との出会いを大事にして人間として成長できればいいかなという風に思っております。

(大原さん)

自分たちにできることは自分たちの手でという合い言葉に、私たち個人がこの川をきれいにしていくというのが夢です。昭和 20 年代はこの川は泳ぐことができ、橋から飛び込んでも頭を打たない、けがをしないくらいの水量があった川だったとのこと。子どもたちがそのような川で泳げるようになるまで頑張りたいと思っています。

(楢山さん)

以前には、職場でNPOの方と時々お話した後で「何か不思議な人と話をしていたね。住民でもない行政でもないどなただったの?」ということをよく言われましたが、徐々に職場内も違和感は無くなっています。こういった形でのNPOの方とのつきあい方、協働の仕方もいいなと思っており、機会があれば是非PRも兼ねながら職場で話していきたいと思っています。

(西畑さん)

公共事業のあり方というのは様々批判も受けたりしていますが、昔そもそも自分たちの地域は自分たちでできるところは草刈りもやり、川も治し、道普請してというところがあったと思うんです。しかし戦後の高度経済成長の中で、道路は国や県がやるものだとか、ちょっと分業が進みすぎて、住民の方も行政に全部お任せというか、要望だけという形になっていますが、本来の土木はそういう事じゃなかったと思うんです。お金がなくなってきたということもありますが、少しずつ人口も減少して右肩上がりの社会でない中で、また昔に少しずつ戻りつつあるのかなと思っています。計画づくりの段階・維持管理の段階、様々な段階で住民ができる範

囲でご協力していただく方が地域にとっていいものができるのではないか、そういう方向で進めていきたいと思っています。

(今泉さん)

この時期での夢といたらやっぱり年末ジャンボで3億円当たることだとは思いますが、宝当袋というのを今日持ってきました。佐賀県の400人未満の小さな離島で唐津市の高島に宝当神社があって、神社を島おこしに活かそうということでグッズをつくったら、この中に入れた人が2億円当たりまして、そうしたら参拝者が13万人来ています。こういうちょっとした仕掛け、こういうのが皆さんにも眠ってると思います。世界遺産じゃなくても、僕は地域の方が大切にしている世間遺産というのに目を向けて、世間遺産めぐりというのができるようなそういうしかけができればいいな思っています。そのためにはトイレが必要なので、まちの駅ということになると思います。先日福井県に行きましたら、交差点にかき運動というスコップが置いてあるんですね。そして信号機で赤で待っている間にかきかいてくださいというふうになっていました。すばらしいな、これが一人一役かなと思います。最後は体を大切にしまちづくり地域づくりをやっていきたいと思えます。一杯飲まないと言音が出ません。ですからこの頃はまちづくりは肝臓からと言っています。岩手県の宣伝をぜひ九州でもやっていきたいと思っています。協働によるまちづくり、応援しておりますので行政の方も5時から市民の一人だと言うことでぜひ頑張ってください。

(甲山さん)

皆様の一步が10年後の岩手をもっともっと元気にしている、明日の岩手を元気にしていると思います。今日のこのひとときが明日の活動の元氣と幸せと、そして元氣な岩手につながることを願っています。

